

「今、私の晴雨計は！④」

## 「美しくもおかしな曲の話」

平山 征夫

昨年最後の随筆で年末・年始を心穏やかに迎えられる音楽をお奨めしましたが効果は如何でしたか。この前の随筆で告白した様に私は心静かに新年を迎えられなかったのですが、皆さんは如何でしたか？

他にも心穏やかになれる曲は沢山あるが、その中で10年前くらいに知った美しいけれどちょっと変な曲の話をしよう。「世界で一番美しいアヴェマリア」と言われている曲のことだ。16世紀から17世紀のイタリアルネッサ

ンス音楽の末期、バロック音楽の初期に活躍したジュリオ・カッチーニが作曲したと言われる「アヴェマリア」だ。最初に聴いたのはオランダのマーストリヒトのオーケストラでヴァイオリンを弾

いていた次女（昨夏より帰国し宝塚市在住）が頼まれて新潟市の画廊でミニコンサートをを行った時だ。家内が電子ピアノで伴奏した。我が親子ながら良い演奏だった。

何より曲が本当に美しいと思っただ。しばらくしてベラルーシ出身の有名なカウンターテナーのスラバが歌っているCDを入手、聴きまくった。イタリアなどヨーロッパ旅行に行つて教会を訪れると何故かこの曲が自然と出てくる。歌詞は「アヴェマリア」し

かない。周りに聴こえないような小さな声で口ずさんでいる積りが、教会では響くのかすぐ妻に「静かに」と止められる。それでも心の中で歌う。

しかし、この曲には裏があった。一九九〇年代前半までこの曲には録音も楽譜も知られていなかったが、その頃この曲が実は一九七〇年頃ソ連のウラジミール・ヴァイロフという作曲家によつて作曲されたものであることが

解った。彼は他にも自作の曲を古典の作曲家の名前でよく発表していた。ヴァイロフはこの曲を「作曲者不明」で発表した。彼の死後演奏家たちがカッチーニの曲としてレコーディングしたため、そう信じられてきたという

のが事実だ。その事実が判明したにも拘らず、未だにこの曲のCDや楽譜解説にもそのことの言及は殆どないし、一般的に「カッチーニのアヴェマリア」と呼ばれ続けているから不思議だ。私も妻の

いないところで皆に「一曲お願いします」などと頼まれれば、「えー、ではカッチーニのアヴェマリアを歌います」と言っている。もうこの曲は「ヴァイロフのアヴェマリア」にはならないだろう。

やはりとてもきれいな曲で同じような曲があるのを三年前に知った。ララ・ファビアンというベルギー出身の女性歌手のヒット曲「アダージョ」だ。成田からウズベキスタンのタシケントに飛んだ時だが、飛行機の設備ソフト

上映画を見ることが出来なかった。そこでフライト中音楽を聴いていた。その時初めて聞いて気に入った曲だ。帰国してから調べたら次のように解説されていた。

「この曲は18世紀のイタリアの作曲家トマゾ・アルビノーニの作曲による有名なアダージョに歌詞をつけたもの」と。だがさらに調べると実はアルビノーニの作品の殆どは、第二次世界大戦のドレスデン空襲で失われてしまっていた。一九四五年イタリアの音楽学者レモ・ジャゾットが「ドレスデン国立図書館の廃墟の中で散逸した文献を整理中偶然アルビノーニのトリオ・ソナタを発見、その後全楽章の断片からオルガンと弦楽合奏用にメロディを復

元した」という。しかし、その後ジャゾットは編曲・復元で作曲ではないとしているが、一九五八年彼が創作した曲であることが判明した。それにも拘らず、ジャゾットはあくまで「アルビノーニの自筆譜に基づき編曲したものである」と言い張っているからややこしい。カラヤン指揮のベルリン・フィルも演奏しているし、アテネオリンピックではこの曲で日本選手団は入場行進している。一九六二年のオーソン・ウェルズの映画「審判」や、一九八一年のメル・ギブソン主演の映画「誓い」の悲劇的幕切れなどにも使われるなど、かなり知られた曲なのだ。この場合はその作曲家の曲ではないので「偽作」ということにな

るのだが、絵の場合の有名画家の作品に見せて描く「贋作」とは違いうように思う。昔の作曲家がいかに作曲したように見せるものだが、「どうだ、分からないだろう」と楽しんでるように見える。ヴァヴィロフは他にも同様のことをしており、「自らの名前を隠し古典の作曲家の名前を借りて作品の神秘化を図ろうとした」と言われている。真意は二人とも亡くなっており分からないが、音楽評論家などに言わせれば、「バロックというよりロマン派風なのでおかしいと気が付く」と指摘している。大好きな曲〜つとも偽作だったとはちょっとショックだったが、私はこれからも偽作であることを承知しつつ、一緒にそれ

を楽しんでゆこうと思っている  
こうした「偽作」は他にもある  
そうで、パラキレフの「即興曲」、  
フランチェスコ・タ・ミラノ「黄金の都市」(カンツォーネ)、  
ドレイ・シクラ「マズルカ」などが  
そうだという。興味があれば調べて  
みてください。

ララ・ファビアン「アダージョ」はお奨めだが、聴くなら歌詞も一緒に楽しんで欲しい。英語とフランス語で歌っているが、日本語訳を次に記したい。

わからない  
あなたをどこで見つけるか  
わからない  
あなたにどうたどり着くのか  
風の中に あなたの声を聞くわ  
私の肌の下に 心と魂の内側に

あなたを感じて

あなたを待つのです

アダージョ 緩やかに

(平成30年1月31日)